

三菱 T-2 CCV

アライ 1/144スケールプラスチックキット改造
製作・文 政府開発援助

1. T-2 CCVについて

T-2 CCV研究機はT-2高等練習機の試作3号機(29-5103)に水平カナード(先尾翼)・垂直カナード・フラップヒンジのフェアリングを取り付け、ベントラルフィン(安定翼)を除去したものである。1978年より防衛庁技術研究本部において開発が進められ、1983年に初飛行している。CCVとは、本来機体設計の段階で確保していた空気中での安定性をコンピュータ制御により人工的に作り出す技術であり、これにより機体設計時の制約を少なくするとともに機体の運動性を向上させることが可能となる。

本機により収集されたデータは次期支援戦闘機(今日のF-2戦闘機)の開発に活かされている。

2. キットについて

ベースキットはアライ(旧LS)のF-1戦闘機です。LS版は私が子供の頃には既に発売されていたようですが、国産の戦闘機ということでキット化にあたって並々ならぬ思いがあったそうです。キット開発の裏話は[こちら](#)で参照できます。キットを手にしてまず目を引くのが薄くて断面形状のしっかり出た翼、今日でも充分通用する出来です。コクピットにはシートがありませんので、自作が必須となります。現行のアライのキットでは鮮やかなデカールが付属しますが、私の買い求めたものは残念なことに版が若干ずれていました。

3. 製作と塗装について

手元に有るハセガワの1/72キットを立体定規として参照しました。実機の開発とは逆の、F-1からT-2への変更

後席キャノピーの新造
垂直尾翼上端の切除
が必要となります。更に、CCV研究機固有の変更点として

・カナードの新造とベントラルフィンの除去
・武装の撤去

等を行いました。後席キャノピーはいつもの塩ビ板ヒートプレスによるものですが、前半分はキットのものを使用しました。シートはプラ材から自作、形状はそれなりに。カナードは0.5mmの透明プラ板(硬い反面歪みにくい)の積層からの削り出しです。今日Web上で確認できる本機の画像では後席が通常のシートの物が多く見られます(練習機として使用されている為)が、完成時を再現するということでハセガワのキットに準じて後席カバーを用意しました。インテーク内側と主脚カバーは薄々攻撃により実感を高めています。

塗装はクレオスのベースホワイトH000を吹いた後、エナメル系の黒鉄色・銀色・つや消し黒等を筆で塗り分けました。コクピット内部はラッカー系のエアクラフトグレーを使用。墨入れはグレーのガンダムマーカーで行いましたが入れない方が清々して良かったかもしれません。マーキングはハセガワのキットのデカールをスキャンして自作しましたが、一部寸法が合わない箇所がありエナメルカラーの筆塗りでもリタッチしています。



側面より

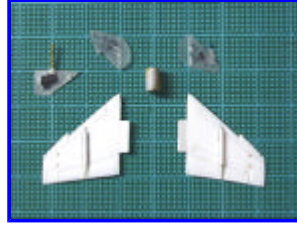


上面より

4.途中画像



機首には尻餅防止用の釣り用オモリを接着。後席部分は裏打ち後に切り込んだ。



CCV研究機固有の装備はほぼプラ板・プラ材から自作。中央にあるのは後席カバー。



キャノピー周辺。キット付属のキャノピーの後ろ側にヒートプレスしたものを合わせている。



デカールはハセガワのキットの物を元にMDプリンタにて自作した。